



① プラタナス

周りのプラタナスに押され伸びる空間を失い、トウヒに突っ込んでいる。



被圧によりまっすぐに伸びることができず、枝数はわずか。回復の見込みはなく、周囲のプラタナスやトウヒへの悪影響を解消するため伐採。



② プラタナス

伸びる空間がないためトウヒに突っ込んで徒長して伸びている。



枝を満足に張ることもできず回復の見込みはないので、伐採。



ニセアカシア

③

隣のアカシアの被圧が顕著で、大きく傾斜して生長している。



枝は隣の木の懷に突っ込んで貫通するように伸びているが、傾いたまま徒長しており危険。

④

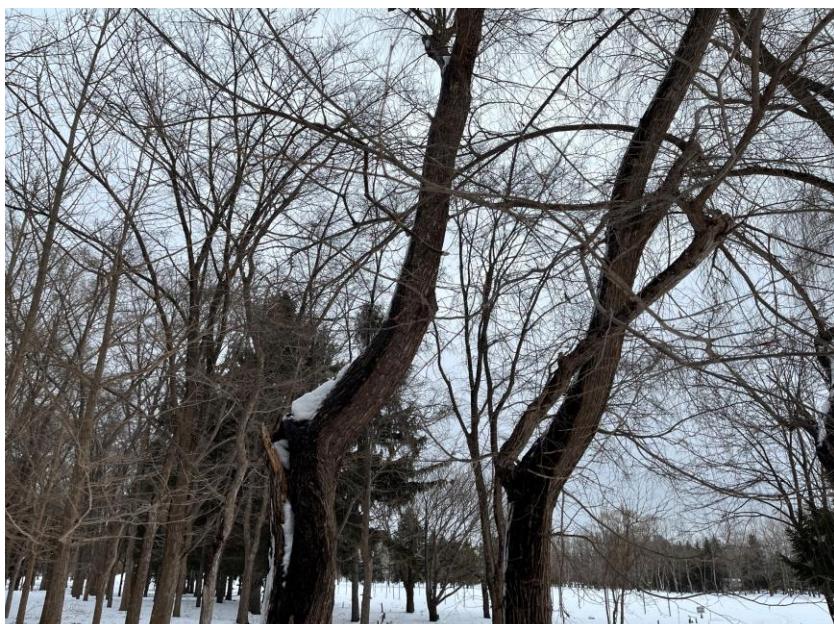


シダレヤナギ

斜隣のヤナギが空間を占めており行き場を失い横に伸びている。幹の太さからも正常な生長の様子は見られない。バランスが悪く回復の見込みがないため、周囲の樹木を維持する目的で伐採。

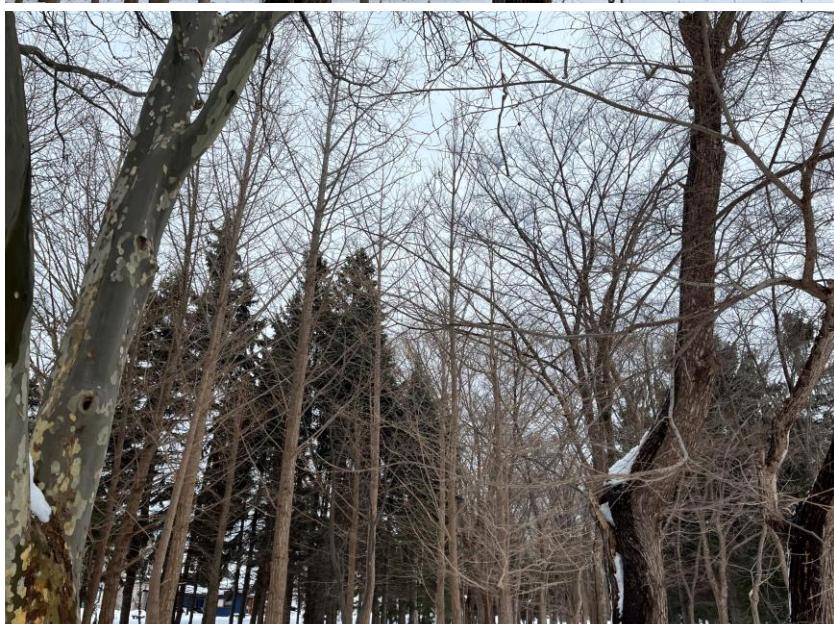


⑤



シダレヤナギ

隣のプラタナスの被圧に負け衰弱し幹は折損し、傾斜して伸びている。主幹の大部分の材が腐朽し偏重を支えられなくなる恐れがある。



⑥



プラタナス

斜隣からの被圧が著しく、主幹は折損し枝は傾斜して伸び、バランスが崩れており危険。（特に、遊戯広場まわりなので）



主幹の材は腐朽が見られ空洞化している。

⑦



プラタナス

斜隣からの著しい被圧。幹は太ることができず、枝を満足に伸ばすこともできない。同時期に植えられたはずだが生長の差が異常。

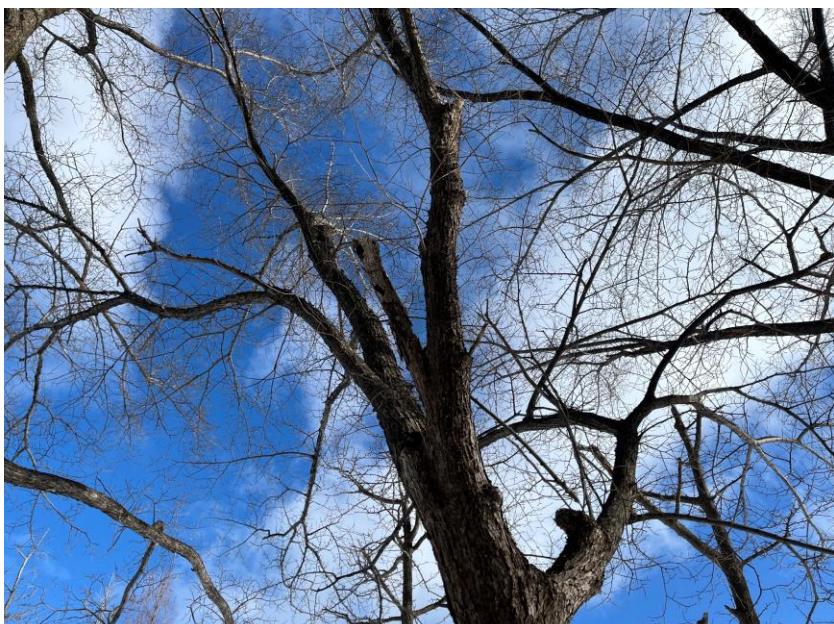


下枝は枯れあがり再生できそうな様子は見られない。



ハリニレ

周囲からの被圧によりまっすぐに伸びることができない。



光量不足で生育不良。枯れ枝が目立つ。

⑨



ニセアカシア・ハリニレ



両側からの被圧で生育不良。
両側のハリニレの枝張りを見ると、間のアカシアとニレが
抜けてちょうど良いくらいの
株間となりそう。回復の見込みがない二本を伐採し両側の
健全な生育を期待する。

⑩



シラカバ

過密で相互被圧。南側にトウヒの列植があり日光が遮られているところもあり、回復を期待して間引く。



左側の列は上にしか伸びることができず徒長。右側の列は左から押されて傾斜。回復を期待できない左側の列を中心に40%を除き、右列の回復を期待する。

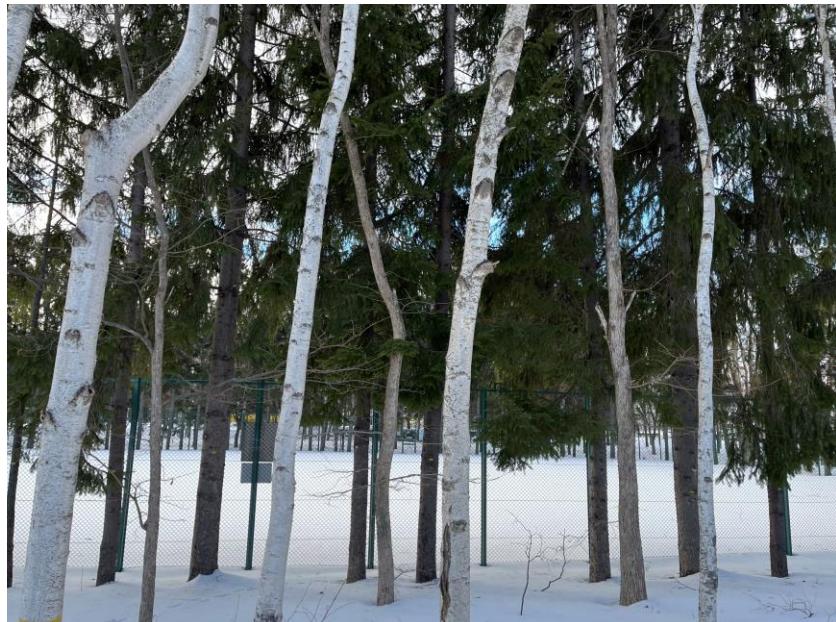
⑪



シラカバ

両側からの被圧により正常な生育ができていない。回復は期待できず、伐採することで両側のプラタナスとシラカバの回復が期待できる。

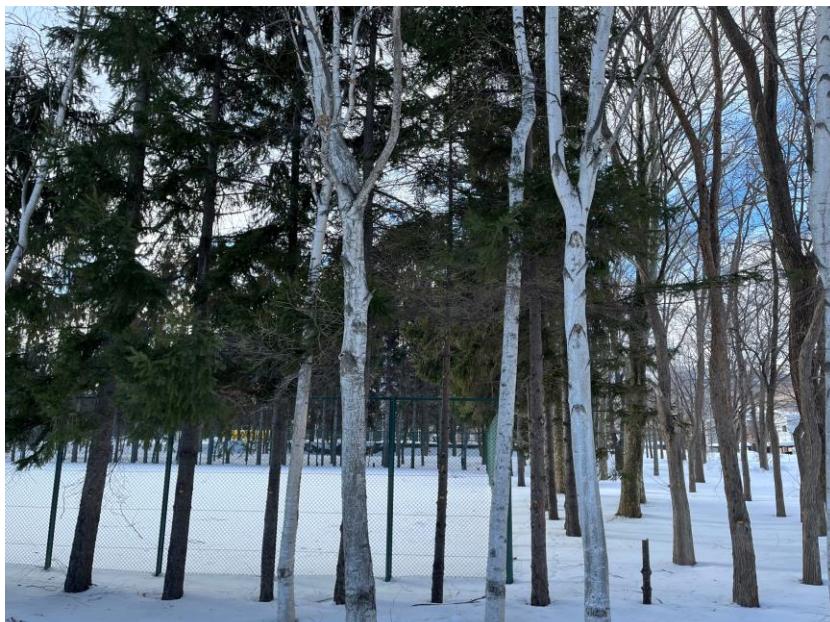
⑫



ノルニレ

過密により伸びる空間が得られず、トウヒに突っ込んでいる状態。四方を囲まれており回復は難しい。放置すると周囲の生育を阻害する要因にもあるため、伐採。

⑬



ドイツウヒ

過密状態で徒長。過密を是正するために伐採。

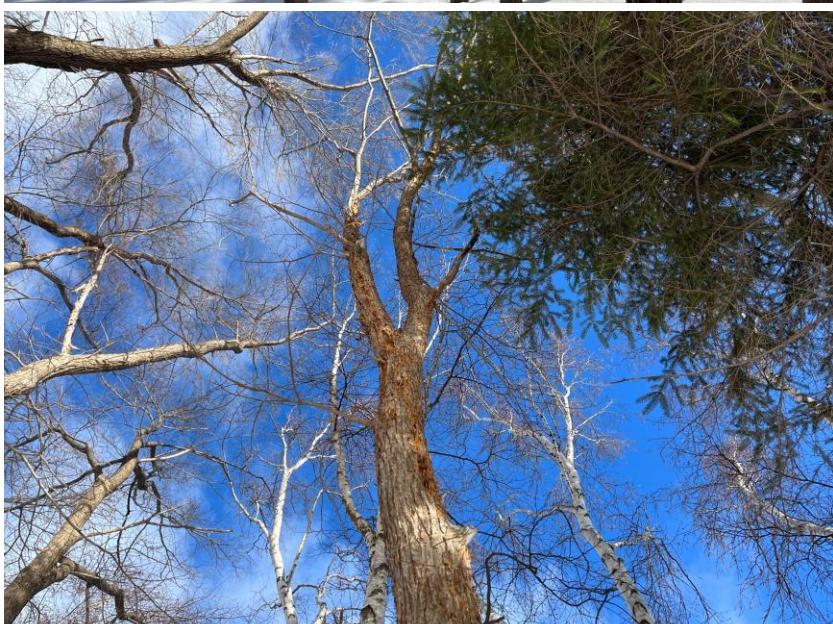


下枝は異常に枯れあがり、生きてている枝はわずかしかない。幹の樹皮は荒れている。

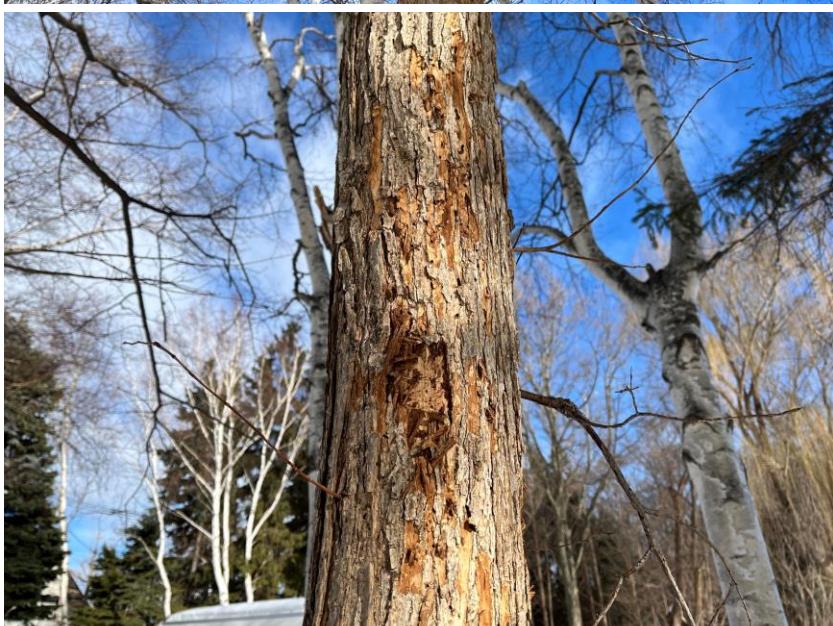


ハリニレ

異常な過密状態で徒長。伐採により過密を解消し適正株間に近づける。

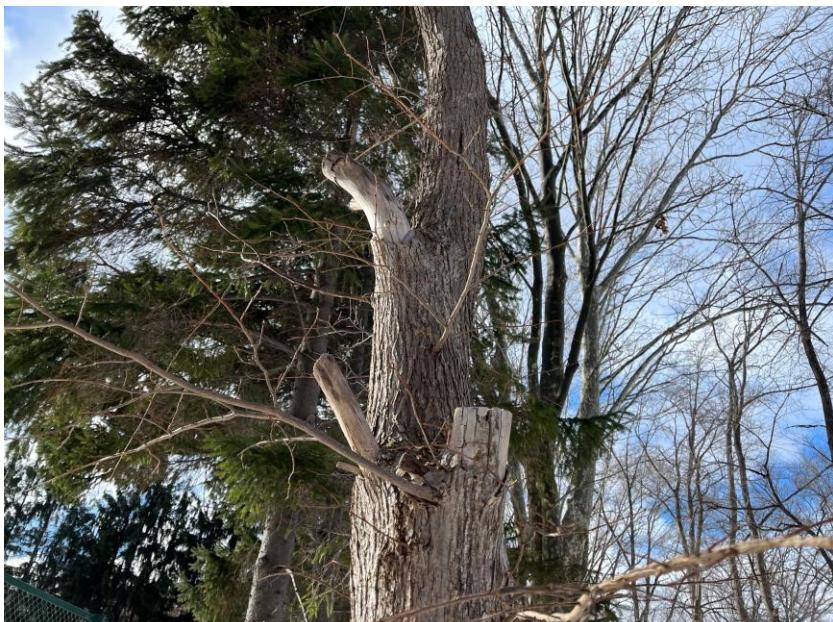


下枝はほとんどない状態。



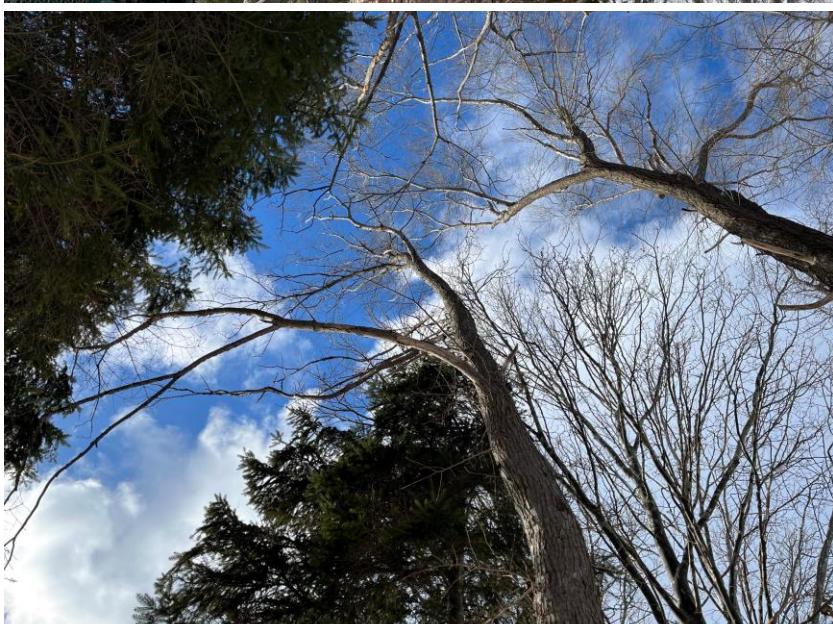
樹皮は野鳥のしわざか、荒れおり、樹勢が衰えてきていることがうかがえる。

⑯



ハリニレ

異常な過密状態で徒長。枝はほとんど枯れており、回復は見込めない。



被圧により傾斜し枯れ枝が目立つ。

⑯



ケヤキ

現状では2.0～3.0m程度の株間だが、樹形をより自然な雰囲気に近づけ、園路を明るい印象にするため、目標株間7～10mとして50%程度を間引き。



過密により生育不良の株を除けば概ね適切な株間を確保できるところが多い。